

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名 ：京奈和自動車道 <small>きほくにし</small> 一般国道24号 紀北西道路		事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 近畿地方整備局										
起終点 ：自：和歌山県那賀郡打田町神領 <small>ながくんうちちちようじんりょう</small> 至：和歌山県和歌山市弘西 <small>わかやましひろにし</small>		延長 ：12.2km											
事業概要 ：国道24号は、京都市から和歌山市に至る延長約160kmの主要な幹線道路である。紀北西道路は、京奈和自動車道の一部を構成し、都市圏の活性化及び国道24号の渋滞緩和、交通事故の削減及び地域振興プロジェクトの支援等を通じて、地域の活性化を図ることを目的とした延長約12.2kmの高規格幹線道路である。													
H9年度事業化		H11年度都市計画決定											
H - 年度用地着手		H - 年度工事着手											
全体事業費：約1,160億円		事業進捗率：1.0%											
計画交通量：30,900台/日		供用済延長：- km											
費用対効果分析結果 B/C： (事業全体) 3.7 (残事業) 3.8		総費用 ：(残事業)/(事業全体) 919/938億円 (事業費：873/892億円) (維持管理費：46/46億円)											
		総便益 ：(残事業)/(事業全体) 3,505/3,505億円 (走行時間短縮便益：3,247/3,247億円) (走行費用減少便益：182/182億円) (交通事故減少便益：76/76億円)											
基準年 ：平成15年													
事業の効果等 ： ・円滑なモビリティの確保（現道における年間渋滞損失額及び旅行速度の改善が期待される） ・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる）他9項目に該当													
関係する地方公共団体等の意見 ： 紀北西道路は、京都・奈良・和歌山間の広域連携強化、交通渋滞の緩和、地域の活性化等に重要な役割を果たすことが期待されており、和歌山市をはじめとする京奈和自動車道促進協議会等により、早期供用を期待する強い要望を受けている。													
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ： 打田・岩出両町に南麓サイエンスパーク関連の企業及び施設の立地と打田町に地域の農業生産を生かしたファーマーズマーケット（来客数年間約80万人）が建設され、現道の交通量が益々増加している。													
事業の進捗状況、残事業の内容等 ： 測量・地質調査の現地立入りについて、全線にわたり地元説明を実施しており、ほぼ了解が得られたことから、今年度から現地調査に着手している。													
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ： 環境アセスメントの付帯意見である猛禽類に関する調査に時間を要していたが、今年度「京奈和自動車道紀北西道路環境対策検討委員会」を設置し、委員会の意見を聞きながら現地調査を進めている。													
施設の構造や工法の変更等 ： 施工にあたっては、周辺環境の保全に配慮するとともに、設計時における道路構造の工夫や新技術の積極的な活用、建設発生土の有効利用等のコスト縮減に努めている。													
対応方針 ：事業継続													
対応方針決定の理由 ：以上の状況を勘案し、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。													
事業概要図 ：													
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">■■■■</td> <td>供 用 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">■■■■</td> <td>事 業 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">■■■■</td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○○○○</td> <td>調 査 中</td> </tr> </table>		凡 例		■■■■	供 用 中	■■■■	事 業 中	■■■■	再評価箇所	○○○○	調 査 中
凡 例													
■■■■	供 用 中												
■■■■	事 業 中												
■■■■	再評価箇所												
○○○○	調 査 中												

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。